1. 人口問題
   1. 人口の推移

〇日本の人口の推移〇

グラフ, 棒グラフ

自動的に生成された説明

出典：厚生労働省　我が国の人口について

日本の総人口は2008年をピークに減少に転じ、2011年から12年連続で減少しており、今後も減少していくことが見込まれています。2022年10月時点で、日本の総人口は**約１億2500万人**となっており、このうち14歳以下人口（年少人口）は、**約1450万人**と減少を続け、65歳以上人口は**約3624万人**となりました。また、2070年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は約39％になると推定されています。

〇近年の日本の人口構造〇

ダイアグラム

中程度の精度で自動的に生成された説明

**少子高齢化**とは、少子化と高齢化を組み合わせた言葉で、「**子どもが少なく高齢者が多い社会**」のことです。日本は、少子高齢化が急速に進んでいる国で、世界最悪の水準となっています。

〇日本の人口ピラミッドとその変化〇

ダイアグラム が含まれている画像

自動的に生成された説明

また、近年、日本の人口ピラミッドは、100年前の「富士山型」から、「つりがね型」を経て、現在は「つぼ型」に変化しています。

* 1. 少子化

〇合計特殊出生率

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション

自動的に生成された説明

〇人口置換水準

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション, チャットまたはテキスト メッセージ

自動的に生成された説明

タイムライン

自動的に生成された説明

〇出生数と合計特殊出生率の推移

グラフ, ヒストグラム

自動的に生成された説明

日本の合計特殊出生率は、最低値である2005年（1.26）から2015年まで上昇傾向でしたが、その後、低下傾向になっています。2022年の合計特殊出生率は1.26で、前年の1.30より低下しており、人口置換水準（2.07）並びに政府の目標（希望出生数1.8）を大きく下回っています。

日本の出生数は、第1次ベビーブーム期には約270万人、第2次ベビーブーム期の1973年には約210万人であったが、1975年に200万人を割り込み、それ以降、毎年減少し続けた。1984年には150万人を割り込み、1991年以降は増加と減少を繰り返しながら、緩やかな減少傾向となっている。2021年は**約81万人**、2022年は**約77万人**と過去最低を更新し続けている。

* 1. 高齢化

|  |  |
| --- | --- |
| **名称(定義)** | **総人口に占める65歳以上人口の割合** |
| 高齢化社会 | 7%以上 |
| 高齢社会 | 14％以上 |
| 超高齢社会 | 21%以上 |

「高齢化社会」とは、高齢化率が７%以上になることであり、高齢化率が14%以上の社会を「高齢社会」、21%以上の社会を「超高齢社会」と定義されています。

日本の**高齢化率**は、1950年以降、一貫して上昇し続け、1970年に「高齢化社会」へ移行し、1994年に「高齢社会」へ、2007年に「超高齢社会」へ移行しました。

2022年には日本の高齢化率は**29％**となりましたが、高齢化率を世界で比較すると日本は**世界一位**となっています。

* 1. 都道府県別の人口動態

〇2022年の都道府県別人口のポイント〇

ツリーマップ図 が含まれている画像

自動的に生成された説明

2022年10月時点での都道府県別人口を見ると、人口が増加しているのは**東京都のみ**で、他の46道府県は人口が減少しています。**沖縄県**は、1972年に日本に復帰して以来、**初めて人口減少**を迎え、沖縄県が自然減少に転じたことで、すべての都道府県で自然減少となりました。

沖縄県は47都道府県で唯一、年少人口の割合が75歳以上人口の割合を上回っています。また、65歳以上人口及び75歳以上人口の割合が最も高いのはいずれも秋田県となっています。